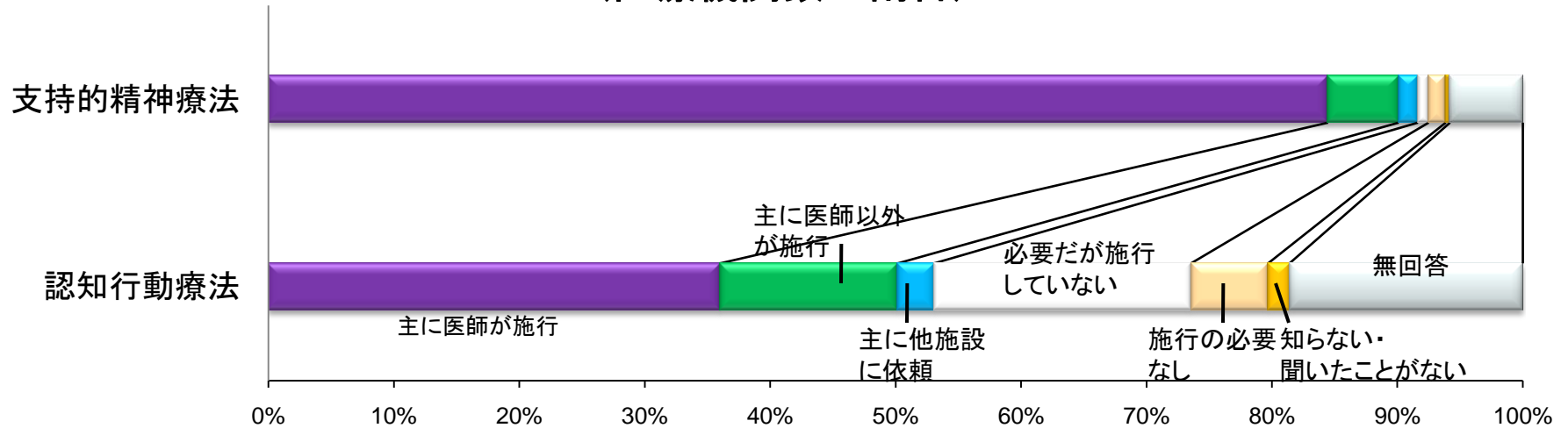
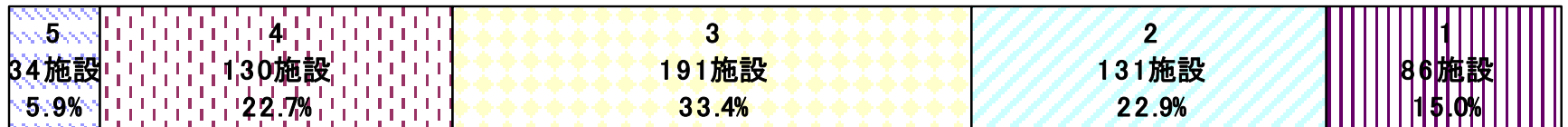


気分障害に対する精神療法の実施状況 (医療機関数の割合)



精神科における精神療法の実施状況 (医療機関の自己評価)

有効回答数: 572



精神療法の実施が十分であるかを5段階で回答
5(十分である)-4-3(どちらでもない)-2-1(十分でない)

十分でない施設が37.9%

- 全国社会資源名簿(2002-2004)(財団法人:全国精神障害者家族連合会・編)にもとづき、精神科を有する全国の医療施設2949施設(病院:1869施設、診療所:1080施設)の診療部長ないし施設長宛に調査用紙を郵送
- 回答施設数:586施設(回答率:20.3%)

⑥社会復帰プログラム

デイ・ケアの「復職プログラム」(例1)

NTT東日本 関東病院 精神神経科

○対象者:会社に在籍し、病休もしくは休職している者

○プログラムの目的:

(1)生活リズムの改善

「朝から活動出来る生活リズム作り」と「通勤訓練」

(2)仕事に必要なとされる基礎能力の改善

色々な課題や種目を通して、集中持続性や判断力、ストレス耐性や問題解決能力などの感覚をもどしていく。

(3)より円滑な対人交流の習得

グループや集団認知療法などを通して、対人交流について振り返ったり、学んだりしていく。

併せて再発予防の心理教育的アプローチを行う。

| | 月 | 火 | 水 | 木 |
|-------------|------|-----------------|------|------|
| 午前 9:30~ | パソコン | 軽スポーツ 集団認知療法 | グループ | パソコン |

デイ・ケアの「復職プログラム」(例2)

ささがわ通り 心・身クリニック(三重県四日市市)

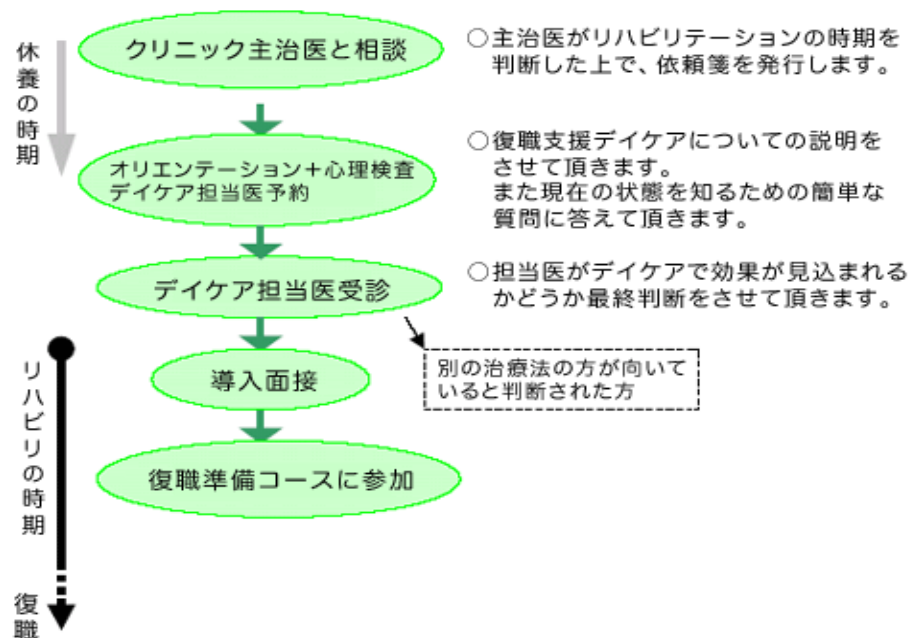
○復職準備コース

うつ病による休業者のための復職支援デイケア。
 オフィスワーク・心理教育・認知療法などのプログラムをリハビリテーションとして行なう。

対象者

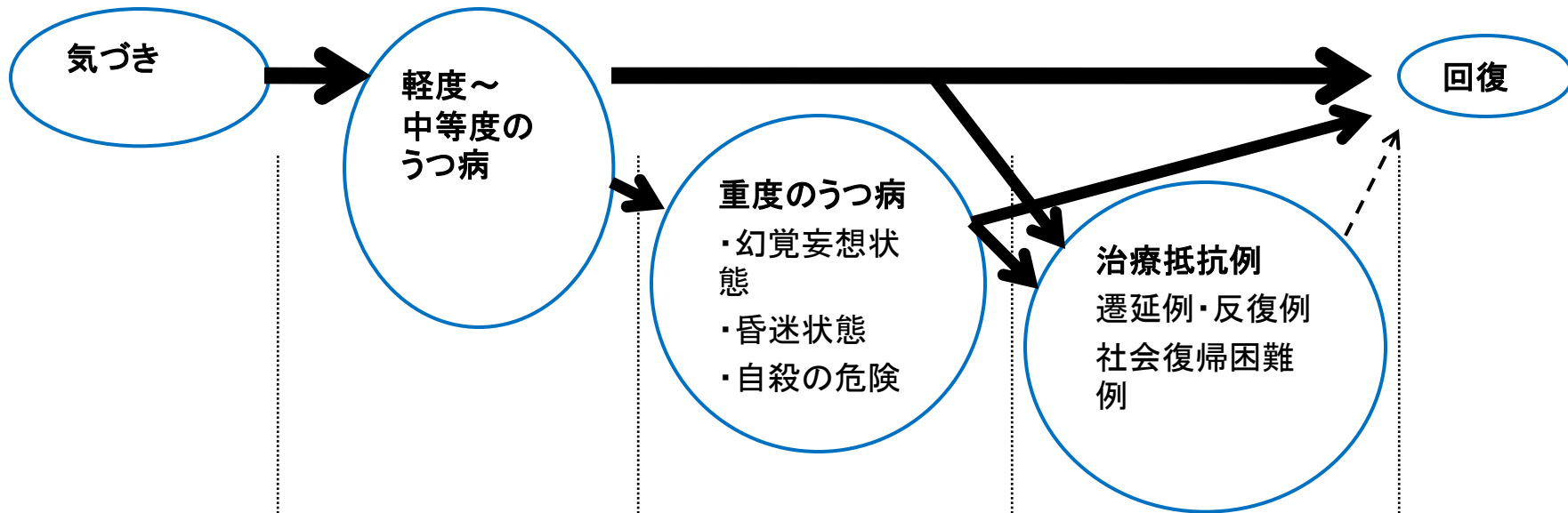
- ・うつ病で現在会社を休んでいて、復職を目指している者
- ・リハビリテーションにて復職が見込まれる者
- ・少なくとも週2回(9:00~15:00)来所でき、プログラムに参加できる者
- ・その他デイケアを利用する上で、支障がない者

以上の条件が満たし、かつデイケア担当医に必要と判断された者のみ利用できる。



| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----|---------------------|--------------------|-----------------------------|---------------------|----------------------------|
| AM | オフィスワーク フィールドワーク | オフィスワーク | ウォーキング | グループ認知療法 うつ病心理教育 | うつの研究会 オフィスワーク |
| PM | インドアスポーツ | ヨガ(DVD) & ジム | 職場道場 (ロールプレイ) オフィスワーク | ヨガ(外部講師) | オフィスワーク 定期面接・ 週間振り返り |

うつ病治療の流れと課題



| | | | | |
|------|-------------------------------------|--|-------------------------|--------------------------------|
| 診療内容 | スクリーニング | 環境調整、生活指導 (必要に応じて) 薬物療法、精神療法 | 保護 薬物療法、精神療法、 ECT | 診断の見直し 複合的介入 |
| 治療の場 | 一般医療 (かかりつけ医) | 精神科外来医療 | 精神科入院医療 | 精神科入院医療 精神科外来医療 精神科デイ・ケア |
| 課題 | 一般の医師に対するうつ病についての啓発 (ガイドライン、研修等) | 適切な医療を提供するための質の確保 (ガイドライン、研修等) 治療抵抗例に移行させないための介入 (リハビリテーション等) | | 有効な治療法の開発 |

課題と検討の方向

現状と課題

- 気分障害は自覚症状が多様なため、精神科を受診していない患者が多く、特にかかりつけ医等で見逃されている場合が多いと考えられる。
- 精神科を受診する気分障害患者は、近年著しく増加している。
- 気分障害に対する、薬物療法、精神療法など、精神科治療の標準化が進んでいないほか、社会復帰への取り組みが十分ではない。また、慢性・遷延例の治療への対応が十分でないという指摘がある。

検討

- うつ病患者を早期に発見し適切に診断できるよう、精神科につなぐための対策を、引き続き進めるべきではないか。
- 気分障害患者に対して適切な精神科医療を提供するため、診療ガイドライン等の作成を進める等により、医療の質の向上を図るべきではないか。
- 特に、海外でうつ病への有効性が確認されている認知行動療法については、国内での有効性の検証を進めた上で、普及を図るべきではないか。
- 気分障害の治療について、復職等の社会復帰の取り組みを積極的に進めるとともに、慢性化・遷延化への対応を含め、治療・支援の方法に関する研究を進め、成果の普及を図るべきではないか。